

## 近況報告:福岡での第三の人生

花野井 歳弘 九州産業大学 情報科学部 元教員  
Toshihiro HANANOI 2003-2010:専任

### はじめに

通常、定年退職後を第二の人生というが、私にとって長年務めたメーカでの生活から九州産業大学への転職による業務・生活の変化は、非常に大きなものであった。このため、これを第二の人生と位置付け、九州産業大学退職後を第三の人生としている。

この第三の人生の楽しみは、“やりたくないことはやらない生活”であった。実際にはなかなか思い通りになっていないが、毎日時間が足りないと感じる生活を送っている。

当初、勤務先に近いので以前住んでいた関東に戻るつもりであったが、便利な福岡に比べ不便が目立ち、また、福岡の魅力に引き付けられて福岡で暮らすことにした。

以下では、近況報告をかねて、生活の一端を記す。

### 1. 1日1万歩

楽しみにしていた第三の人生であったが、数ヶ月で病を得て入院。ようやく小康を得た時、医師より再発防止には、“毎日1万歩歩くこと”と指示された。

そこで、自宅近辺を歩き出して4年、半径徒歩1時間の範囲内はかなり細い道まで歩いている。運動が目的のため目的地を定めずに、交差点では青信号になった方向に、また、趣のある道(並木道、細い山道など)に出会えばそちらを選んで歩き、1時間経過したら別の道で帰宅するなど行き当たりばったりの散歩である。

この間、自動車では見過ごす、あるいは自動車は入れないような狭い道にある多くの史跡・案内板に出会い深い印象を受けている。

以下ではそのほんの一部である名島から東方面での印象深い発見(?)を列挙する。

#### ● 名島水上飛行場 リンドバーグ飛来

まず、西の名島海岸から。

海岸の壁には多くの説明板が掲示されているが、このなかで、昭和の初め短期間であったが水上飛行場があり、昭和6年には『翼よ! あれが巴里の灯だ』で有名なリンドバーグが夫妻で飛来、市民の大歓迎を受けたとあった(図1)。



図1 リンドバーグ飛来

これにちなみ名島海岸に向かう道は“リンドバーグ通り”と名付けられていることにも歓迎ぶりがうかがえる(図2)。

著名なリンドバーグ、および水上飛行場など意外な出会いに感激。

ちなみに名島の多くの道には歴史に因んだ名前が付けられ、それぞれ説明板がある。いわく、“かめ焼道”、“帆柱通り”、“蓮華坂”、“羽衣台道”などなど。大変興味深く、散歩での楽しみの中の1つである。

#### ● 岩見重太郎誕生之地

名島の街の中の小さな公園に、“岩見重太郎誕生之地”の石碑(図3)を見つけた。



図2 リンドバーグ通り

あまり知られていないかもしれないが、岩見重太郎は戦国の剣豪で、小学校低学年で読みふけた講談全集にあった“狒狒(ひび)退治”の話は今もよく覚えている。思いもかけない出会いに小学生時代を思い出すなど感激。



図3 岩見重太郎の碑

### ● 史跡 足利尊氏 陣の越

さらに東方、多々良川北岸の台地に見える水道タンクのある松崎配水場。門前に何度か訪れるうちに、その端に遊歩道を発見。よく整備され、森に囲われ、タンクの横を通る森林浴に最適な遊歩道である。この遊歩道の終点近くで説明板(図4)を見つけた。



図4 足利尊氏 史跡「陣の越」

これによると、京より敗走を重ねた足利尊氏が自害まで覚悟し劣勢で臨んだ“多々良川の合戦”の本陣跡「陣の越」で、地元豪族の協力で勝利。ここから反転して京に攻めのぼり室町幕府を開いたターニングポイントとなった重要な戦跡とある。

また、近くの3号バイパスの脇にひっそりと建つ尊氏ゆかりの「片袖塚」、多々良川対岸の多の津にある「兜塚」など、ここを中心とした近辺で尊氏関係の石碑・説明板を、いままでに全部で8基も発見している。このことからこの地の重要な史跡であることが感じられる。

### ● 秘境 奥の院 十三仏

香椎宮の境内にある「周辺歴史散策案内」にある神社・史跡には、その近辺の散策中ほとんど回っていた。しかし、「奥の院 十三仏」にはかなり歩き回ったが行きつけなく、ほとんどあきらめていた。

あきらめきれずにネットで調査したら、“ホームページ「香椎浪漫」”を発見。これに詳細な地図があったので、これに従い行ってみた。

香椎台の現代的で美しく区画整理された住宅街の外れに入口があった(図5)。



図5 十三仏への入口

そこから、人跡まれな、

藪蚊・クモの巣に覆われた山道を、道を塞ぐ倒木をあるいは乗り越え、あるいは潜り10数分、ついに行き着く(図6)。山道の様子から荒れていることを心配したが、手入れが行き届いていた。



図6 奥の院 十三仏

閑静な住宅地に隣接してこのような“秘境”ともいえる箇所がある福岡市の魅力を改めて感じた。

訪れたい諸君への装備のアドバイス。帽子、長袖、長ズボン、軍手に加え、虫よけスプレー、さらにはクモの巣を払うための1m位の棒の持参を勧める。

改めて、先のホームページを見てみたら、「地元でもその場所を知らない人が多く、また「男でも一人はちょっと怖く」、「できるだけグループ」でとあり、これを先に読んでいたら行かなかったかもしれない。

なお、以後再訪の勇気は湧かない。

### ● 絶景 三日月山

徒歩1時間圏の外れにある三日月湖(長谷ダム)の先に三日月山がある。登山道はいくつもあり、何度かの探索により三日月山霊園から最も近いと断じ、秋晴れの日に登山に挑戦した。この山道には、岩だら

けの急峻な坂もあったが、登山道は整備されており、40分程度で頂上に。頂上は切り開かれている広場で、休日であったため多くの老若男女が来ていた。



図7 三日月山 山頂より

登山には往復3時間以上要したが、ここからは福岡市の中心部が一望できる絶景(図7)が見られ大変満足した。また、北には戦国の武将立花宗茂が守りきった城が存在した立花山が望まれ、改めて戦国の山城の立地に感慨無量であった。

また、やっと登ってきたのに、小中学生(及び犬も)が駆け足で上り下りしているのを見て、体力の差を感じ愕然としたものである。

この絶景は見る価値がある。毎年1度はと思ったが、その後登れていない、今年は登山できたらと思っている。

## 2. 頭の体操

健康面だけでなく、頭脳の劣化を防ぐため種々の試みも実行している。その1つを以下に記す。

シニアにはトランプゲームが効果ありと言われていたので、パソコンで楽しんでいる。この中で、Microsoft Windowsにあるフリーセルは技が上達、ほとんど勝利する様になった。このことから、“このゲームは必ず勝つことができるのではないか、それならば簡単なアルゴリズムのソフトで自動勝利可能ではないか”という考えが強くなった。

卒論でも利用したMicrosoft社のVisual Studio、当時は高価であったが、現在は無料でダウンロードできる。これを利用し自動でゲーム実施をするプログラムを目指し、作成に熱中した。

プログラムの内容は

### Step1. ゲームデータの作成

独自にゲームデータを生成することも考えたが、偏ることも心配されるので、Windowsのフリーセルゲームそのものからゲームデータを流用することとした。

手順は、フリーセルゲームを開きPrintScreenでイメージ化、このイメージをOCR技術(文字認識)で解読する方法で実現した。

### Step2. ゲーム実施

最初に思いついたアルゴリズム(すべての手を網羅することにより必ず勝利するはず)でプログラムを作成したが、PCのリソース制限などもあり、勝率30%に留まってしまった。しかたなくトリッキーな対策を積み重ね現在勝率99%(500ゲームで495ゲーム勝つ)。



図8 ゲーム自動実施画面(途中)

不成功の5ゲームをマニュアルで実施してみると4ゲーム成功、1ゲームはまだ不成功。この1ゲームは、もしかしたら勝利不可のパターンかもしれないと考えだしたところである。

今後、マニュアルでは勝てた4ゲームについて自動勝利、および不成功の1ゲームの不可であることの証明に挑戦したい。

### おわりに

大学隣地の香椎、千早および埋め立てたアイランドでは、大規模開発が進められている。どこからこんなに人が集まるかと心配するほど多くの高層マンションや大病院、また、埠頭施設などが建築中で、数ヶ月毎に街の景観が変わり散歩も飽きない。

このように、秘境から近代都市までコンパクトな地にある福岡の魅力をこれからも楽しんで行きたい。